

## ◆ 今週のコメント

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(男性, 60歳代)あり, 症状は発熱, 咳嗽, 腹痛, 下痢, 肺炎です。レジオネラ肺炎は, 乳幼児や高齢者, 闘病中で抵抗力が低下している人が発病しやすく, 健康人でも疲労等で体力が落ちている時に発病することがあるため, 注意が必要です。
- インフルエンザの定点当たり報告数は6.57(447例)で, 前週 1.76(120例)に比べて3.7倍に患者が増加しており, 全国的にも増加が見られます。感染対策としては, 「せきエチケット」や手洗い等の手指衛生が重要です。  
なお, 今シーズンのインフルエンザ発生状況を下記に掲載しています。  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

## ◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.66(68例)となり, 「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降, 最多となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 四類: デング熱 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 14例】
- 五類: カルバペネム耐性腸内細菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 9例】
- 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 37例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

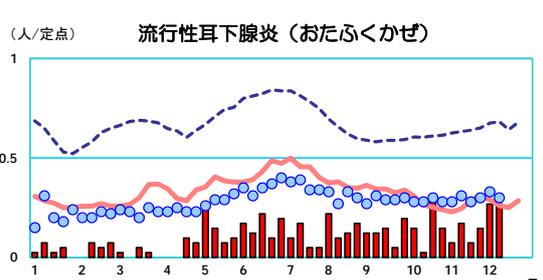
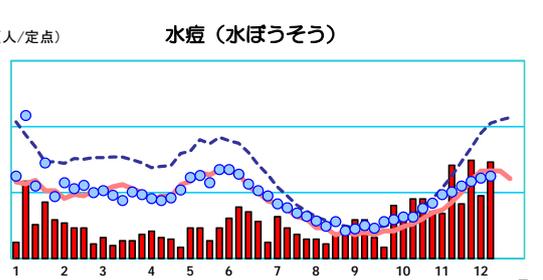
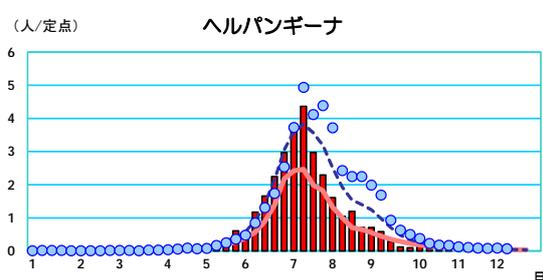
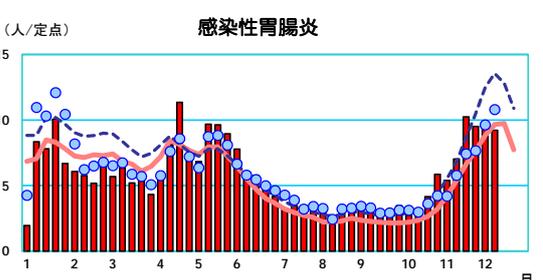
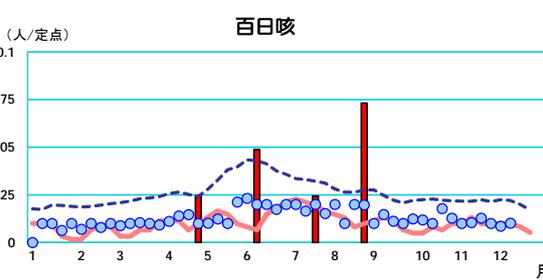
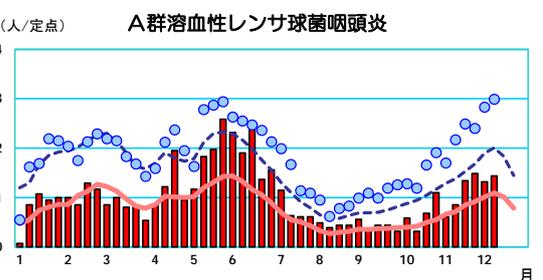
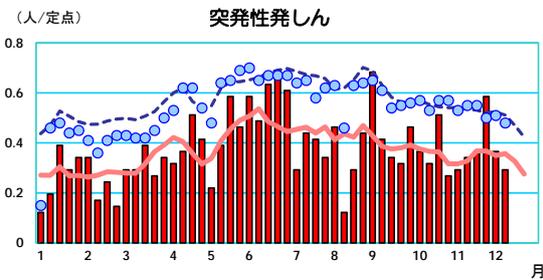
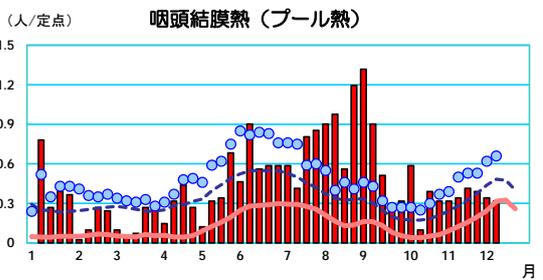
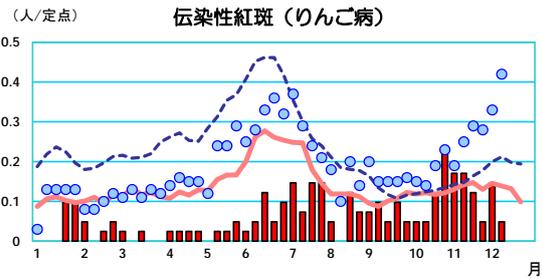
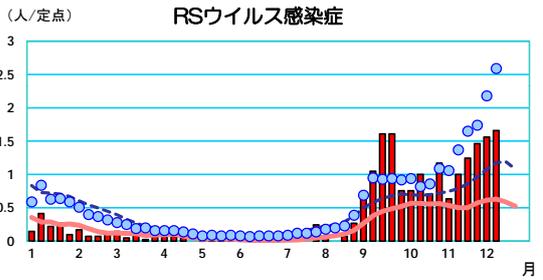
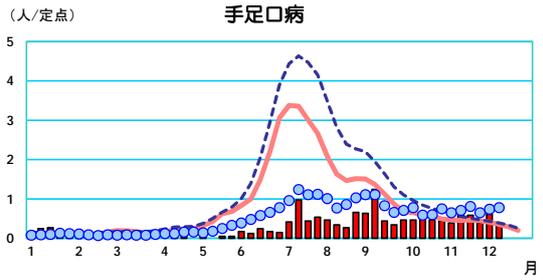
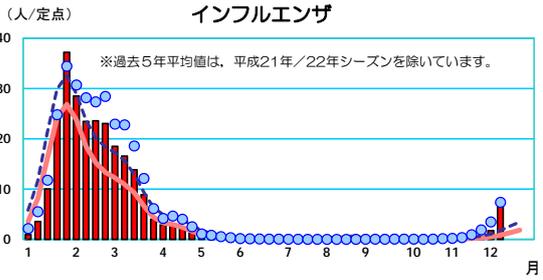
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	6.57	447
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.22	378
	② RSウイルス感染症	1.66	68
	③ 水痘	1.46	60
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.44	59
	⑤ 手足口病	0.37	15
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>  
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは, 平成26年12月18日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成26年）



## 第50週(12月8日～12月14日)トピックス: <RSウイルス感染症>

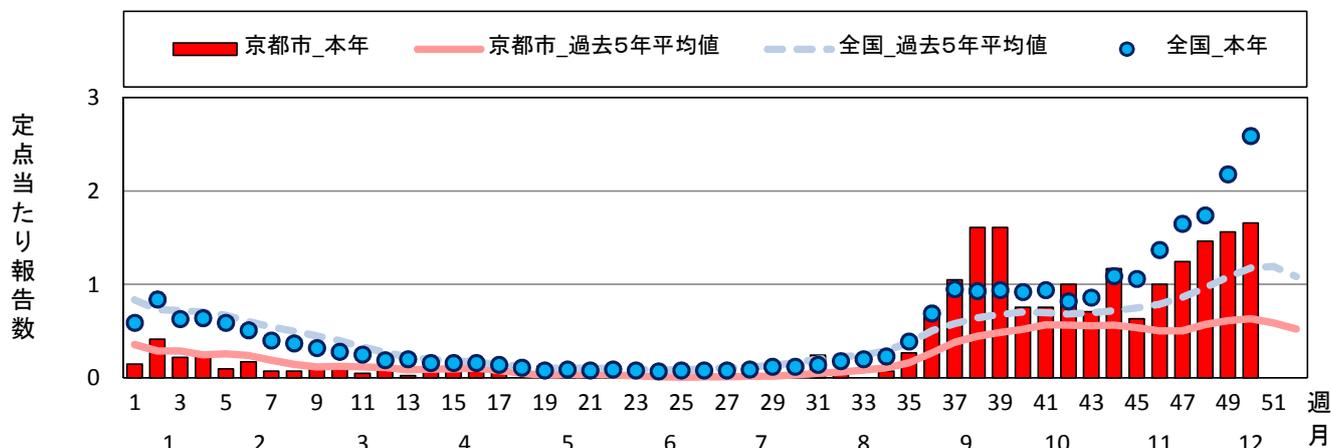
RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.66(68例)となり、「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降、最多となっています。全国的にも患者報告数が急増しており、第47週(11月17日～11月23日)以降、4週連続で1週間あたりの患者報告数が過去最多を更新しています。

平成22年まで秋から冬にかけて流行していましたが、平成23年以降、夏頃から増加する傾向がみられ、本年も8月下旬頃から患者数が増加しました。その後、いったん減少しましたが、第46週(11月10日～11月16日)以降、5週連続で増加しており、引き続き今後の発生動向に注意が必要です。

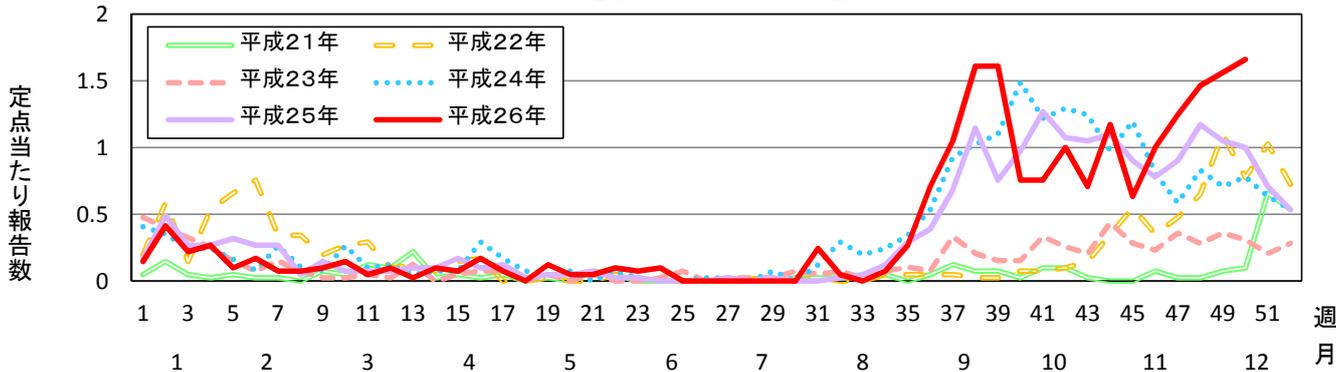
RSウイルス感染症は、いわゆる風邪の原因となるウイルスとしてよくみられ、年齢を問わず生涯にわたり何度も感染を繰り返します。年長時や大人では軽い症状で治まるため、感染している事に気づかないことがあります。しかし、乳幼児では重症化しやすく、特に早産児や心臓・肺に疾患のある乳児、生後数週間～数カ月間の乳児では、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

本年第50週までの報告例でみると、年齢階級別では1歳が321例(38.5%)と最も多く、次いで6ヶ月～11ヶ月 194例(23.3%)、0ヶ月～5ヶ月 140例(16.8%)の順となっており、1歳以下が全報告数の80%近くを占めています。咳などの症状がある年長児や大人は、可能な限り0～1歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。感染予防の対策としては、インフルエンザに対する場合と同じで、マスク着用によるせきエチケットや流水・せっけんによる手洗いを徹底することが大切です。

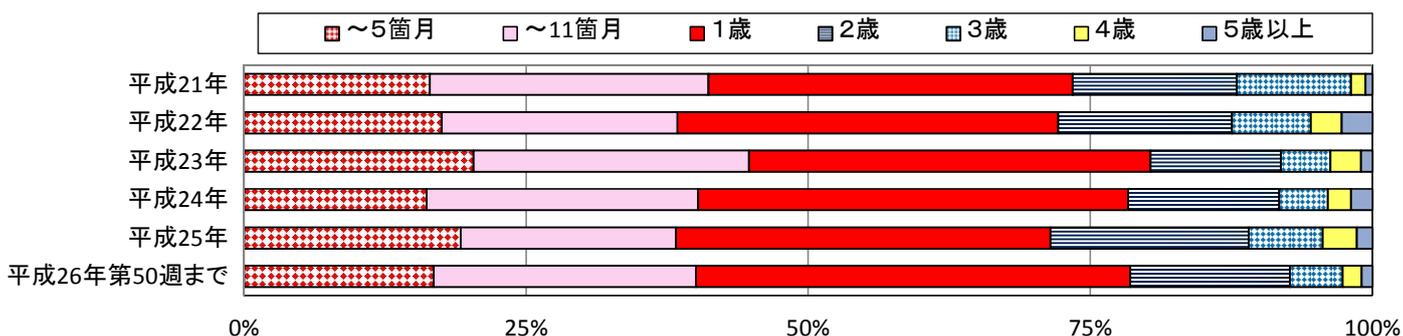
京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別割合の推移



T3201

### 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成26年第50週

疾病,行政区別報告数

平成26年12月8日～平成26年12月14日

データ入手日:平成26年12月18日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																				
北	21	2	1	2	12	-	-	1	-	-	-	-	-	-						
上京	17	8	-	2	9	-	2	-	3	-	-	-	-	-						
左京	41	4	3	6	62	15	1	1	1	-	1	2	-	-						
中京	27	6	-	1	21	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	9	7	-	-	20	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
山科	105	2	1	-	5	1	1	-	-	-	-	-	-	-						
下京	3	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
南	94	-	1	4	33	6	-	-	1	-	-	-	-	-						
右京	60	11	1	15	56	8	2	-	2	-	-	6	-	2						
伏見	35	15	5	11	89	13	6	-	3	-	2	-	-	-						
西京	35	13	1	17	69	14	3	-	2	-	-	1	-	-						
京都市計	447	68	13	59	378	60	15	2	12	-	3	11	-	2	-	-	-	-	-	-

性,疾病,保健所別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																				
北	3.00	0.50	0.25	0.50	3.00	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-						
上京	3.40	2.67	-	0.67	3.00	-	0.67	-	1.00	-	-	-	-	-						
左京	5.86	1.00	0.75	1.50	15.50	3.75	0.25	0.25	0.25	-	0.25	0.50	-	-						
中京	5.40	2.00	-	0.33	7.00	0.67	-	-	-	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	3.00	3.50	-	-	10.00	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-						
山科	15.00	0.50	0.25	-	1.25	0.25	0.25	-	-	-	-	-	-	-						
下京	1.00	-	-	0.50	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
南	18.80	-	0.33	1.33	11.00	2.00	-	-	0.33	-	-	-	-	-						
右京	7.50	2.20	0.20	3.00	11.20	1.60	0.40	-	0.40	-	-	1.20	-	2.00						
伏見	3.18	2.14	0.71	1.57	12.71	1.86	0.86	-	0.43	-	0.29	-	-	-						
西京	5.00	3.25	0.25	4.25	17.25	3.50	0.75	-	0.50	-	-	0.25	-	-						
京都市計	6.57	1.66	0.32	1.44	9.22	1.46	0.37	0.05	0.29	-	0.07	0.27	-	0.20	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

# 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成26年第50週

年齢階級, 疾病別報告数

平成26年12月8日～平成26年12月14日

データ入手日:平成26年12月18日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	447	1	1	9	8	18	21	24	26	42	31	24	136	19	24	17	23	13	6	3	1
RSウイルス感染症		68	8	14	25	16	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		13	-	-	2	3	-	3	2	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		59	-	-	-	2	4	5	3	12	8	6	6	5	-	8	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		378	3	20	70	39	41	36	27	21	23	25	12	22	5	34	-	-	-	-	-	-
水痘		60	-	3	8	12	9	4	8	5	5	2	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-
手足口病	年齢3	15	-	1	3	6	1	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		12	-	4	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		3	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		11	-	-	-	2	1	3	1	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 性,年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	6.57	0.01	0.01	0.13	0.12	0.26	0.31	0.35	0.38	0.62	0.46	0.35	2.00	0.28	0.35	0.25	0.34	0.19	0.09	0.04	0.01
RSウイルス感染症		1.66	0.20	0.34	0.61	0.39	0.07	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.32	-	-	0.05	0.07	-	0.07	0.05	-	-	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.44	-	-	-	0.05	0.10	0.12	0.07	0.29	0.20	0.15	0.15	0.12	-	0.20	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		9.22	0.07	0.49	1.71	0.95	1.00	0.88	0.66	0.51	0.56	0.61	0.29	0.54	0.12	0.83	-	-	-	-	-	-
水痘		1.46	-	0.07	0.20	0.29	0.22	0.10	0.20	0.12	0.12	0.05	-	0.05	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-
手足口病	年齢3	0.37	-	0.02	0.07	0.15	0.02	0.05	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.05	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.29	-	0.10	0.10	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.07	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.27	-	-	-	0.05	0.02	0.07	0.02	0.05	-	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成26年第50週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成26年12月18日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	3	13	15	43	120	447
RSウイルス感染症	26	41	51	60	64	68
咽頭結膜熱	13	14	17	16	14	13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25	35	55	61	54	59
感染性胃腸炎	221	288	420	390	402	378
水痘	28	58	34	61	39	60
手足口病	16	27	24	16	25	15
伝染性紅斑	7	7	5	2	6	2
突発性発しん	12	14	15	24	15	12
百日咳	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	2	2	1	-	3
流行性耳下腺炎	3	7	3	6	11	11
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	5	2	5	1	2
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	355	511	643	685	751	1,070

性,週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	0.04	0.19	0.22	0.63	1.76	6.57
RSウイルス感染症	0.63	1.00	1.24	1.46	1.56	1.66
咽頭結膜熱	0.32	0.34	0.41	0.39	0.34	0.32
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.61	0.85	1.34	1.49	1.32	1.44
感染性胃腸炎	5.39	7.02	10.24	9.51	9.80	9.22
水痘	0.68	1.41	0.83	1.49	0.95	1.46
手足口病	0.39	0.66	0.59	0.39	0.61	0.37
伝染性紅斑	0.17	0.17	0.12	0.05	0.15	0.05
突発性発しん	0.29	0.34	0.37	0.59	0.37	0.29
百日咳	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	0.05	0.05	0.02	-	0.07
流行性耳下腺炎	0.07	0.17	0.07	0.15	0.27	0.27
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.50	0.20	0.50	0.10	0.20
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	8.71	12.72	15.69	16.67	17.23	21.92

※1 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 オウム病を除く。

※4 病原体がロタウイルスであるものに限る。